

古人同志、今人同志、又は古人今人間に、往々句の類似を見る事がある。其事について一寸述べて見ようと思ふ。一口に類似と云つても必ずしも一樣でない。さまざまの種類がある。第一は剽盗より来る類似、第二は不注意から生ずる類似、第三が模倣より来る類似、第四が翻案よりの類似、第五が暗合、第六が誤伝誤写等より出来た類似、まづざつと此六種である。

第一は云ふまでもなく自己の利益とか名譽とかの爲めにせんとする卑劣極まる行爲から生ずる

類似で、文學者とか詩人とか云ふものの口にするだも厭ふべき所である。

第二、これは主に自己の一度耳にし目にしたことのある句を、不知不識の間に其儘書きつけるよりのことで、畢竟不注意の致す所である。よし第一の如き悪意はなくとも結果の上から多少咎は免れない。

(蕪翁集) 行春や逡巡として遅櫻 蕪村

(花鳥集) 行春の逡巡として遅櫻 金篁

これはどうでも蕪村の不注意らしいといふことである。大江丸の「俳諧懺悔」にも此種の事が書いてある。

一、雪中菴曰発句を案するに「こゝろに浮び我に珍らしくたゞめ見るに、不思も前人の趣向におなしやうなる句書いつるものなり。是かねて間感し心裏に残れるものか、又は案し其境に行あふもの故人の句に彷彿たるあり。

皆好の道より出るものにして初心悪功の入たる人の他の趣向をぬすみて一、二字を入れかへる事などは混ぜべからずと語られし、我もちか頃

後してや月のおもても瘦女

几董の句に似たり。

飯たこや朝むらさきのひとしほり

巴人が句に似たり。

水鳥のかしらならべてあさひかな

布舟の句なり云々。

心裏に云々は此第二の類似の原因、其境に行あふ云々は後の暗合、悪功の入たる云々は前の剽盗を指したのである。

又嘗て菜窓無角君の選ばれた募集吟の中に

永き日や大佛殿の普請聲

と云ふのがあるので驚いたことがあつた。これは李由の有名な句である。是の如きは作者の不注意は勿論、選者たるものも其責を分たなければならぬ訳になる。

第三、これは畫で云はゞ原圖と臨畫との類似と云ふ様なことで、一体此模倣と云ふ事は写生と相俟つて初心者の爲めには甚だ要なることで例へば

妹が子は齋打つ程になりけり 成美

妹が子は栗食む程になりけり ○○

是等は此種のものと思はれる。尚ほ

菜の花や月は東に日は西に
をもちつて

五形花や岡は左に川は右に

も面白くないかと虚子氏も言つて居るが、此模倣の類似と云ふことは俳諧の専門家として世に處らんとする人には断じて許し難いと「俳諧大要」にも書いてあつたと思ふ。

第四、翻案と云ふ語は余程廣汎に涉つて居るが、こゝでは即ち古句の趣向を翻案して自家薬籠中のものに作り更へることから起る類似である。宗祇の句に

世に経るは更に時雨のやどりかな
と云ふのを芭蕉は

世に経るは更に宗祇のやどりかな
とした。蕪村は更にもぢつて

時雨るゝや吾も古人の夜に似たる
然るを土朗は

世に経るは更に芭蕉のやどりかな
と咏んだと云ふ事である。又

蒲團着て寝たる姿や東山
嵐雪と蒲團引き合ふ東山

蒲團着て山さへ寝るを鉢叩き

此類いくらでもある。和歌の本歌取りと云ふ風な具合で必ずしも咎むべきことではない。

こゝに一つ注意すべきは原句が余程有名な句でなければ駄目であると云ふことである。

第五、これは全くの暗合でこれもまゝある事で左程珍らしくも無い。嘗て某席上で
若草や蹄のあとの水たまり

と咏んだ所が、数日後発行の某雑誌に出て居た笠雨子のと一字も違はなかつた。今春も早々
喰ふて寝て牛にならばや御代の春

で太虚君と暗合があつた。古人でも

花咲かぬ身は静かなる柳かな

花咲かぬ身は狂ひよき柳かな

湖の水もまさるや五月雨

湖の水まさりけり五月雨

かの後家の後ろに踊る狐かな

同

乙由

千代

許六

去来

太祇

召波

手枕や月は布目の蚊屋の内

と云ふ句がある。これは作者の方の暗合ではなくて聞き傳へたる世人の誤りであらうと思はれる。

同時代でどちらも女流の名家ときて居るから一寸すると間違はるゝ事もないとも限られぬ。それで両方に同句を見る様になるのである。又有名な

起きて見つ寝て見つ蚊屋の廣さ哉

は世俗では千代尼の作と心得て居るが、此句は「其便集」と云ふ千代尼の産れぬ先きの句集に、傾城浮舟の句として出て居ると云ふ事である。これも矢張り世人の不注意から起きる類似暗合で、つまり此種の暗合は作者は一切無関係で外面の人の誤から出来るので査して見れば根も葉も無い事であるのである。

先づざつと此様なものである。此六つの原素が結合して更に種々複雑な性質の類似を見ることも比々あるが、茲で云ふべき限りではないが、何にせよ此類似と云ふことはあまりほめたことではないが、是を避けるには先づ第一に多く古今人の俳句をよく読まなければならぬ。呉々も読書を勧むる次第である。